

予算決算委員会都市経済分科会会議録

招 集

令和元年6月27日（木） 議会委員会室

出席委員（8名）

（分科会長）稲 田 清 （副分科会長）又 野 史 朗
伊 藤 ひろえ 遠 藤 通 田 村 謙 介 戸 田 隆 次
前 原 茂 矢 倉 強

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

伊澤副市長

【経済部】杉村部長

[経済戦略課] 雑賀課長 山浦産業・雇用戦略室長 坂隠企業立地推進室長
藤堂係長

[商工課] 毛利商工課長 高浦商工振興担当課長補佐 植松係長

【文化観光局】岡参事兼局長

[観光課] 鶴籠課長

[スポーツ振興課] 深田課長

[文化振興課] 下高課長 萩原課長補佐兼文化振興担当課長補佐

【農林水産振興局】中久喜局長兼農林課長

[地籍調査課] 景山課長

[水産振興室] 赤井室長

【都市整備部】錦織部長

[建設企画課] 伊達課長 角課長補佐兼総務担当課長補佐

佐藤課長補佐兼管理担当課長補佐 折戸課長補佐兼企画調整室長

[都市整備課] 福住次長兼都市整備課長 北村課長補佐兼公園街路担当課長補佐
赤井河川橋りょう担当課長補佐

松本課長補佐兼米子駅周辺整備推進室長

[道路整備課] 山浦次長兼道路整備課長 渡邊課長補佐兼道路改良担当課長補佐

[営繕課] 前田課長

[建築相談課] 湯澤次長兼建築相談課長 神門課長補佐兼建築審査担当課長補佐

[住宅政策課] 原次長兼住宅政策課長 東森課長補佐兼住宅政策担当課長補佐

潮課長補佐兼市営住宅担当課長補佐

【下水道部】矢木部長

[下水道企画課] 藤岡課長 山崎下水道企画室長 金川総務担当課長補佐

[下水道営業課] 遠藤課長

[整備課] 宮田次長兼整備課長 山中課長補佐兼管路整備担当課長補佐

清水管路維持担当課長補佐

[施設課] 田口次長兼施設課長 高浜施設維持担当課長補佐

松並課長補佐兼施設工事担当課長補佐

【農業委員会】 宅和事務局長

出席した事務局職員

先灘局長 長谷川次長 足立議事調査担当事務局長補佐

傍聴者

安達議員 石橋議員 今城議員 岩崎議員 岡田議員 岡村議員 奥岩議員

門脇議員 土光議員 三嶋議員 渡辺議員

報道関係者 3人 一般 3人

審査事件

議案第 59 号 専決処分について（平成 30 年度米子市一般会計補正予算（補正第 6 回））

議案第 60 号 専決処分について（令和元年度米子市駐車場事業特別会計補正予算（補正第 1 回））

議案第 64 号 令和元年度米子市一般会計補正予算（補正第 1 回）のうち、経済部所管部分

~~~~~

**午後 1 時 08 分 開会**

○**稲田分科会長** ただいまから予算決算委員会都市経済分科会を開会いたします。

本日は、21 日の本会議で予算決算委員会に付託された議案のうち、当分科会の審査担当とされました議案 3 件について審査をいたします。

経済部所管について審査をいたします。

初めに、議案第 59 号、専決処分について（平成 30 年度米子市一般会計補正予算（補正第 6 回））を議題といたします。

当局の説明を求めます。

雑賀経済戦略課長。

○**雑賀経済戦略課長** そうしましたら、議案第 59 号、専決処分についてでございます。専決処分書のほうをまず、ごらんいただけますでしょうか。2 ページをお開きいただけますでしょうか。

災害復旧事業費、日野川運動公園の繰越明許の追加でございます。これは、平成 30 年 9 月の台風 24 号による被害を受けた、日野川運動公園の災害復旧事業につきまして、全国的に災害復旧工事が集中したため、工事に使用する芝の不足によりまして、工期内の納入が困難となり、工期の延長を要することとなりましたことから、繰越明許費として計上したものでございます。

以上が専決処分についての概要でございます。

○**稲田分科会長** 当局の説明は終わりました。

委員の皆様の質疑、御意見をお願いいたします。

戸田委員。

○**戸田委員** ちょっとこれ関連で、けさラジオで聞いたんですけども、日野川運動公園の中に入ってというか、東山公園かな、球場なんかに入って車で荒らしとったっていう

ような話があったんですが、この日野川運動公園っていうのはどんなような管理をしとられるんだろう、通常は。この辺をちょっと伺っておきたいと。

○**稲田分科会長** 深田スポーツ振興課長。

○**深田スポーツ振興課長** 通常、この日野川運動公園の管理についてであります。指定管理者制度を利用して管理しております。出入りするには、国交省の管理通路をもってグラウンドに出入りすることになっております。一番下流側の通路については、車どめがしてありますが、ほか3カ所入る箇所がございますが、そこはふだんは自由に出入りするようになっております。ふだん利用者は市民体育館で申請をいたしまして、その利用時間に応じて使用しているところであります。管理人等はありません。通常、巡回班が芝刈りですとか除草ですとか、そのような管理をしております。以上です。

○**稲田分科会長** 戸田委員。

○**戸田委員** 通常は、施錠して部外者が入れないという状況になつるとということで、認識でよろしいんですか。

○**稲田分科会長** 深田スポーツ振興課長。

○**深田スポーツ振興課長** 通常は管理通路、車どめがしてあるのは1カ所だけでございまして、通り抜けはできないんですが、どなたでも入ることができます。

○**稲田分科会長** 戸田委員。

○**戸田委員** 委員長、実は私けさ寄って見たんだけど、実はそうなりましたね。ただ、テレビの、新聞の、ごめんなさい。ラジオで報道があったんだけど、東山公園、東山球場かどっかじゃなかったかな。そういう実態はなかったですか。

○**稲田分科会長** 深田スポーツ振興課長。

○**深田スポーツ振興課長** 被害に遭いましたのは、このたび議案に載っておりますこの日野川運動公園の一番下流から2番目の少年野球のグラウンドであります。

○**稲田分科会長** 戸田委員。

○**戸田委員** それで、災害復旧費で繰越明許される、これは内容について今後の継続とかいろいろこの委員会で議論はされておられるんですけども、いつも私も感じますに、災害のたびにこの都度こういうふうな復旧工事、たとえ国の補助金であれども、本当にこの今の使用のあり方、管理のあり方、これから継続していくあり方が本当にいいのかどうか、その辺のところも違った視点で部内では協議をされておられますか。その辺のところをちょっと伺っておきたいと思います。

○**稲田分科会長** 深田スポーツ振興課長。

○**深田スポーツ振興課長** この日野川運動公園についてですが、野球場が7面、サッカー場は1面、ラグビー場は1面ということでグラウンドがございます。このような規模の体育施設をどこか代替に整備するということになりますと、やはり用地整備から含めまして、かなりの金額が必要になってくるのではないかと思います。ですので、現状のところ、この日野川運動公園を引き続きスポーツ活動の場として提供させていただきたいということで、特段代替地を整備することについては現在具体的な検討はしておりません。

○**稲田分科会長** 戸田委員。

○**戸田委員** 私が言うのは、具体的に検討しとらないではなくて、この災害復旧ということで都度結構こういう事案が出ておるんですね。そういうふうな豪雨、これはまたあし

たからも降るようですけれども、豪雨があってまた災害になった、国費をいただければ修理でいいがな、というような塩漬けみたいな管理の状況でいいのかどうなのか。ただ、一方、市民にそれだけの利用があって供する場所も当然必要であろうということは私は理解するんです。しかしながら、こういうふうな災害復旧があったたびに、今後どうあるべきか、1面でもどっかに確保していくのかどうなのかというような代替案は、私はある程度方策の中で検討していかなければならないのではないかとことを伺っておるんですよ。副市長さん、その辺はどうですか。

**○稲田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 今担当課長のほうからお話し申し上げました、少し前段が抜けていたような気がします。先般来、議会でも御指摘いただいておりますし、河川敷公園のメリット、デメリット、両方改めて議会の御議論も踏まえながら認識しているところであります。

先ほど課長のほうから申し上げましたが、やはり一連の連なるグラウンドといいましょうか。いろんな大会等をやる時に非常に便利ということもあって、実際に稼働率もかなり高いというふうにも伺っております。このメリットはメリットとして認めつつ、一方で河川敷公園の脆弱性といいましょうか、当然河川敷でありますので、増水したときには水に流されると。これは近隣では鳥取市に似たようなものがあって、よく議論があるように承知しております。

結論は、当面はこの河川敷公園を活用するということが基本になるとは思っておりますが、その脆弱性ということも改めて、我々特に最近水害が多いという気象状況もございませう。中長期的にどうしていくのかということをやっぱり考えなきゃならないということをして市長と話しております。ただ、じゃあ、すぐにどっか代替の、例えば7面ぐらいとれるようなところがぱっと頭に思い浮かぶのかということになると、具体的にはちょっとなかなか想像がしづらいなというのがありまして、それをふっと縮めて言うと先ほどの課長が答弁したような形になるんですけども、そういうことで、我々としても課題意識を持ちながら、中長期で考えると。このように思っております。以上です。

**○稲田分科会長** ほかございませうか。

遠藤委員。

**○遠藤委員** ほんなら材料の調達はできて工事はきちんと完了するわけ。いつごろだ、完了するのは。

**○稲田分科会長** 深田スポーツ振興課長。

**○深田スポーツ振興課長** この工事なんです、31年1月24日に着工いたしまして、3月29日までを当初工期としておりました。その後、現場につきましては、4月の8日に完成いたしまして、完成検査を4月24日に行ったところでございませう。そのうち、野球場については養生期間を終了しまして6月から供用開始してございませう。またサッカー場、ラグビー場につきましては、7月から供用開始を予定してございませう。

**○稲田分科会長** ほかございませうか。

〔「なし」と声あり〕

**○稲田分科会長** ないようので、次に参ります。

次に、議案第64号、令和元年度米子市一般会計補正予算（補正第1回）のうち経済部所管部分を議題といたしましませう。

当局の説明を求めます。

雑賀経済戦略課長。

**○雑賀経済戦略課長** そうしますと、議案第64号につきましては、歳出予算の事業の概要とそれから令和元年度米子市補正予算書のほうで御説明させていただきます。

まず、一般会計の補正予算につきましては、歳出予算の事業概要で3ページのほうをお開きください。下段、中小企業振興条例策定事業として、34万1,000円計上しております。これは本年度予定しております条例制定に必要な事項の検討を行うための、検討委員会の委員報酬及び制度を早期に普及させ運用するために必要な概要パンフレットの印刷経費を増額しようとするものでございます。

続きまして、4ページのほうをお開きください。上段、未利用エネルギー活用調査事業として、4,191万8,000円計上しております。これは地域内で未利用となっている再生可能エネルギーである、内浜処理場の下水処理過程で発生します消化ガスを活用して発電を行い、電気を各公民館に設置する蓄電池へ蓄電するとともに、平常時及び非常時において効果的に充放電を遠隔制御するという一連の事業スキームについて、今後の施設の改修計画等を踏まえながら、持続可能な事業として成り立っていくかどうかということ进行调查しようとするものでございます。

続きまして、同じページの下段でございます。米子市プレミアム付商品券事業として、2億3,411万3,000円計上しております。これは消費税率の引き上げによる低所得者、子育て世帯の消費に与える影響を緩和し、あわせまして地域の消費を喚起し、下支えするために発行するプレミアム付商品券につきまして、3歳未満児の子育て世帯の対象となる基準日が令和元年6月1日から令和元年9月30日へと変更されたため、対象者の人数が増加する見込みとなったことから、必要な経費を増額しようとするものでございます。

続きまして、令和元年度米子市補正予算書のほうをごらんいただきまして、12ページをお開きいただけますでしょうか。繰越明許でございます。米子市プレミアム付商品券事業費の繰越明許費の追加でございます。これは本年度に実施いたしますプレミアム付商品券の使用期間を令和2年3月末までとしたため、精算業務などが年度内に完了しないことから、繰越明許として翌年度に繰り越しを行おうとするものでございます。

以上が今回の経済部関係の一般会計補正予算の概要でございます。

**○稲田分科会長** 当局の説明が終わりました。

委員の皆様には質疑、御意見をお願いいたします。

又野委員。

**○又野委員** そうしますと、未利用エネルギーの件で一つ確認したいんですけども、この消化ガスの活用は全国で広がっているようなんですけども、当初予算のときの説明の内容では、地元企業とともに事業可能性を調査するというふうに書いてあったんですけども、その後の新聞報道のほうで、神戸市と米子市内の民間企業3社と契約し、というような記事があったんですけども、実際まだ調査という事業なのではっきりどうなるかっていうのはわからないと思いますけれども、実際地元企業で対応できそうなのかどうか、そこら辺って何かわかるもんなんですか。

**○稲田分科会長** 山浦経済戦略課産業・雇用戦略室長。

**○山浦経済戦略課産業・雇用戦略室長** 本事業は現在未使用となっております下水処理場の

消化ガスを使って、熱と電気をつくり出しましてそれを活用しようとするものでございますが、より効果的に事業を行うことを目的としまして、地元の企業の2社がガスの発生量を最大化する技術を持つ神戸市の企業を連れて来たことに伴いまして、3社のコラボレーションという形をとっております。前年度中途から民間3社の負担によりまして研究を行っております、本年度も引き続き研究が必要であったため、本年度はその3社と本市との共同研究という形をとっております。以上です。

**○稲田分科会長** 又野委員。

**○又野委員** ありがとうございます。実際ちょっと、これが地元企業でできるかどうかまだわからないとは思いますが、これ電力料金として今市外に出ていってのお金って結構な金額になると思うんですね。それが地域内にとどまって循環していけば、ほかの自治体でも言われていることなんですから、新たな雇用がその自治体の中で生まれてくるっていうふうにも言われているようです。この消化ガスですけれども、今自治体の資源、地元の資源として見直されているようですので、ぜひともこの消化ガスの活用をさせていただいて、地元の企業とともにという考えでぜひとも進めていただければと思っています。よろしくお願いします。

**○稲田分科会長** 戸田委員。

**○戸田委員** 同じこの消化ガスのエネルギーの問題ですけれども、当初予算に比して4,100万ということなんですが、これは先ほど説明があったんですが、それらに付随する基本構想というのはまず、定められたんですか。基本構想を当議会か委員会に示されたんですか。示されずに巨額の4,000万の補正予算だけをとということですか。私、書類を見ますけど、出てこないんですよ。今又野委員さんとのやりとり聞いておったんですが、私は当局からそういう説明を受けた機会がない。基本構想を示して、それでそういうふうな市民にメリットが見出せるから、今後実施設計に入っていくというのが私は事務の手順だと思うんですよ。基本構想を示されたかどうかなんです。何を私たちがこれを4,100万の増額について、何を審査するんですか。情報は全く私たちはないんです。改めてそういう当局は、委員もかわりますし、そういうふうな補正について基本構想はこうであって、今調査研究をしていかないけんので、そういうふうな補正が必要ですよ。さらなる市なり、市民なり本市にとって、有益な事業だというような位置づけがないと、何に基づいて審査するんですか。副市長さん。

**○稲田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 事前の説明が少し丁寧さを欠いたということは反省したいと思います。ただ一つだけ申し上げたいのは、いわゆる本当にこれが事業化できるかどうかということ。今の議員の言葉をかかりますと、基本構想をつくる前段階なんですね、いわゆる今可能性調査をしているという段階です。技術的には議員よく御案内のとおりであります。全国的にもどんどん始まっております、先ほど又野委員からもありました。未利用エネルギーの代表的なものとして出ております。これは非常にありがたいことにエネルギーは取り出せるし、それに伴って汚泥が大体半分ぐらい減量すると、すると汚泥処理費も半分で済むという、非常にいい考え方のものでございますが、一方で今の内浜処理場の既存のインフラで本当にそれができるのかどうかとか、そういった技術面の検証が実は必要になるということでもあります。そしてそれを本当に事業化に向けて、かじを切るかどうかということ

の可能性について、先ほど担当のほうから御説明したとおり、昨年度の中途から民間企業の手弁当でやっていただいていますし、今年度はそれに米子市も少しだけお金を出させていただいているという中で、今回国の10分の10の補助金が獲得できましたので、そのいわゆる可能性調査をさらに加速させて、本当に事業化できるかどうかということをやりたいと。そういった今スキームで進んでいるということの説明が十分でないという御指摘だと思います。これは冒頭申し上げたように素直に反省させていただきたいと思ひますし、また改めてきちんと御説明したいと思ひますが、そういう段階だと。そしてこの事業可能性調査をやって、事業できそうだということであれば、基本的な構想なり、それからその後実施設計ということになりますので、御説明したいと思ひますが、まずは次の機会にきちんと御説明したいと思ひます。以上です。

**○稲田分科会長** 戸田委員。

**○戸田委員** そういうことで、私が思ひますのに、やっぱりそういう閉会中の委員会でもそういうふうな事前に説明をされて、次期補正についてこういうふうなタイムスケジュールですよというスケジュール感なりスキームを説明をされてから、私は計上されるのが本来のあり方でないかと思ひますよ。その辺のところ副市長さんがそういうふうな指摘を認められるようですので、私のほうではまた改めて、その辺のところの機会に説明を詳細に願ひたいというふうな思ひます。

**○稲田分科会長** ほかございますか。

遠藤委員。

**○遠藤委員** 戸田委員の今言われたことに、私も全くそのとおりで思ひますが、4,000万円からの金を使って、なるかならないかわかりませんが、一応調査させてもらいますっていう説明は、僕は通らんと思ひますよ、これ、国民に対して。

行政が行う事業の方向性が、どうなるかわかりませんが税金を使ひますよと、今副市長の説明はそんなふうな聞こえますよ。僕はそこに問題があると認識をしてる。例えば、4,100万のものは国が認めたということは、全国的に展開されとる中で、可能性は既に出したというものがあつた上で、国も認めたと思ひますよ。どうなるかわかんけど米子市まあやってみるか、おまえ4,000万やるけん。こんな話じゃないと思ひますよ、僕は。

そういうことを考えてみると、今戸田委員が言われたけども、やはりもう少しこれ全体に結果的には調査はここまで完成してないけど、こういう目的でこういう流れで、こういう景色というか、そういうものを含めたものを事前に我々議会に示してもらわないと、判断材料がないと、今戸田委員が言われたように。基本構想というものをきちんと、それまでいかにしても、こういう概要のものでございますというものを示していただくってこれが前提でないといかん。これ僕はずっとこの都市経済委員会におるけど、一度も話が出たことない。ということで、苦情を申し上げますがね。

同時に公民館にどう連結していくのかと、全くそれが、今度加茂公民館が新しくなるんですよ。どういうふうなそこに、このエネルギーが流れていくのか、全く読み取れないんです、この中身では。だからそういうことも含めると、そういうものを含めてわかりやすいものを、説明書というか、構想までいかにしても、示してもらいたいと思ひますけどな。できている、できていない。

**○稲田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 説明については後ほど補足があれば、担当のほうからでもさせていただきますが、ちょっと先ほどの私の発言が誤解を招いた部分があるような気がしますので、少し補正をさせていただきたいと思いますが、先ほども少し申し上げましたが、この消化ガスの活用の基本的な技術的な部分はほぼ、といいましょうか、確立されております。実際他県といいましょうか、他の処理場のほうではプラントが稼働しておりますので、技術的な部分はあれしておりません。ただ、さらにその効率を高めるというような部分を今回、実証といいましょうか、調査の中に入ってございまして、それが先ほど申し上げた神戸の企業というのがそれでありまして。

技術的な部分は、ほぼ確立しているんですけども、それを具体的に米子の内浜処理場で実施が可能かということの検証はまだこれから、今やってる途中ということでございます。したがって、できるかできんかわからないということについては、技術面では可能だということは、実証できているわけでありまして、具体的に内浜処理場でしようとしたときに、既存のインフラにどの程度投資が必要なのか、それが売電価格との関係で、本当に事業的に見合うものなのかどうか、いったようなことも含めて、今内浜処理場の性能といいましょうか能力といいましょうか、そういったようなことも含めた調査をやっているというのが今の実情でございますので、その点はちょっと補足をさせていただきます。

それから資料等については、担当のほうから御説明いたします。

**○稲田分科会長** 山浦経済戦略課産業・雇用戦略室長。

**○山浦経済戦略課産業・雇用戦略室長** 当該事業につきましては、国への補助申請をした際に、事業スキームというものを、市なりのアイデアを出させていただいて、それを参考とさせてもらって検討いただいたというところでございます。実際この事業スキームにつきましては、確定したのではなくて、各市の状況に応じて、また変更、多少なりとも変更が可能ということでございますので、基本構想につきましてもそのあたりを反映させたものとしてお示しできるかと思っております。以上です。

**○稲田分科会長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** もともと国に申請する動機というか、きっかけっていうのは、内部で検討してこれやることにしたのか、それとも今この地元2社とか神戸の企業とかが出てくるけども、この中からこういうものがアクションが起きてやるようにしたの、どうなってるの、経過は。

**○稲田分科会長** 雑賀経済戦略課長。

**○雑賀経済戦略課長** 一応、まず未利用エネルギーをどのように活用していくかということを検討したときに、又野委員が言われたように、全国的に消化ガスという未利用のガスを使って発電とか熱を供給しているという事業がございまして、これを使ってエネルギーの地産地消、それから及びそれに基づいて蓄電池を各公民館に置けば、非常時に災害のときに避難所となったときに、それで非常用電源で使える。また、平常時にはいわゆる使用電力がピークになったときにそれを放電して、いわゆる電力の地域内での需給調整、そういうものが可能かどうかということが考えられましたので、それを国に示したところ、それはすばらしいということで、すばらしいといいいますか、それはエネルギーの地産地消、いわゆる転換ですね、外部からの電力じゃなくて地域内での電力の自給自足といいいますか、そういうものとして国のほうが事業として調査してみてくださいということで、採択を受



けたものがございます。

○**稲田分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** ちょっと聞いてることと中身が違うんだけど。問題はこういう制度、国の補助金制度があつて、こういう事業制度があつて、米子市で検討した結果、米子市が独自に国に申請する動機に至ったのか、それとも地元の2社なり神戸の企業、こういうものの皆さんからアクション、尻をたたかれて、米子市やってみられませんか。あつ、ほんならやりますわ、申請してみますわ。こういうふうに至ったか、どっちかいうことを聞いとる。

○**稲田分科会長** 雑賀経済戦略課長。

○**雑賀経済戦略課長** あくまでも内部です。いわゆる役所内部で検討した結果、それに基づいて調査について地元の企業さんが協力していただけるということでやったものでございまして、あくまでも庁内で検討した結果でございます。

○**稲田分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 委託をするということになってくると、選定した業者というのはどういう基準で選定したの。これだけしかおらんの。

○**稲田分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 今やっておりますのが、地元の企業さんと一緒に、下水道の消化ガス、これをいかに大量に発生させるか、これをどういう形でやればいいのかということを実際、実証している最中でございまして、この予算は当初予算で組んで、先ほど副市長が御説明しましたとおり、昨年度から企業の自前の調査としていただきながら、今年度は市のほうもその費用の一部を負担させていただく。これは当初予算でお認めいただいたところあります。今後の調査委託事業については、改めまして今回の補正予算の事業を受けていただくところを、これから契約をしていくという状況でございまして、今どことこれを委託するということはまだ決まってないと、具体的に。

○**稲田分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 随契でいくの、競争でいくの。

○**稲田分科会長** 雑賀経済戦略課長。

○**雑賀経済戦略課長** 一応プロポーザル方式で考えております。

○**稲田分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** そういうことであれば、最初から言ったように、我々自身にも、今言った調査結果が出るまでのスキームみたいなものを含めた概要のものを説明書と、それから今言ったプロポーザルでやるならばそういうものはどういう形のもんというか、きちんとやっぱり見えるような状態で事前に。委員長、報告を求めにやいけんよ。

○**稲田分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 御指摘をいただいております、本当に事前にこの補正予算をつくる前に、今国に出した構想こういったものを御説明させていただけばよかったかなというふうに反省しておるところでして、今後補正予算をお認めいただけるのであれば、閉会中の委員会の中で、現在考えている、こういう形のものを考えていますということを報告をさせていただきたいというふうに思います。

○**稲田分科会長** 伊藤委員。

○**伊藤委員** 1点。米子市プレミアム付商品券事業について質問させていただきます。

1点は基準日の変更の理由を聞かせてください。2点目は対象者の人数、何人から何人にふえたのかと、あと3点目は経済効果の見込みということをお教えいただきたいと思えます。

**○稲田分科会長** 毛利商工課長。

**○毛利商工課長** 米子市プレミアム付商品券についてのお尋ねでございました。先ほど御説明しました基準日の変更でございますけれども、この基準日に関しましては、当初国が示しております対象の中の、令和元年7月31日時点の住民という形で、3歳未満の子どもに対して、対象になるというものでございまして、その当初が、初めに示されていたものが6月だったものが9月に変更になり、国の基準自体が変更になったもので、その追加をしたものでございます。この追加の人数に関しましてはおよそ400人ぐらいいを、400件ぐらいいを予定しているということになっておりまして、全体で、済みません、失礼しました。およそ6カ月延長になりまして、大体月150人ぐらいいの子どもがふえておりますので、900人の増になるというふうにお思っております。よって、最終的に3万5,000人の対象件数となるというふうに見ております。済みません。3カ月の増でございます。

**○稲田分科会長** 高浦商工課商工振興担当課長補佐。

**○高浦商工課商工振興担当課長補佐** 当初は4,000人でまず見込んでいたんですけれども、期間が伸びたということで再度計算をし直したところでございます。計算をしますと、6カ月延びましたので、一月当たり150人大体今お子さんが生まれておられるということですので、900人ふえると。ただ3月31日現在では……。

ちょっと計算をし直したということでございます。3月31日現在が3,900人でしたので、合計で4,800人。当初とのあいさの800人を今回補正予算要求とさせていただきます。計算をし直したということでございます。

**○稲田分科会長** よろしいですか。

伊藤委員。

**○伊藤委員** その3カ月、基準日のことなんですけど、変更の理由は別に示されていないのですか。なぜ3カ月延びたかっていう理由をお尋ねしたところですし。あと3点目の経済効果の見込みがあるのであれば、お教えいただきたいです。

**○稲田分科会長** 毛利商工課長。

**○毛利商工課長** 先ほど申し上げました基準の変更の理由ですけれども、これは国によって示されたものですが、消費税の導入による経済活性化を図るための国の理由により、対象者をふやすということが国によって示された。それによって基準のいわゆる拡張が行われたものと推察しております。先ほど言ったように経済効果ということに関しましては、消費税の導入による消費の落ち込みを防ぐというのが当初の目的でございまして、対象者をふやすことでその活性化を図るものというふうにお国のほうで示されておりまして、市のほうもそういうところで効果の部分まで、地域における効果までは推計はしてございません。

**○稲田分科会長** よろしいですか。

**○伊藤委員** はい。

**○稲田分科会長** ほかございますか。

ないようですので、以上で経済部の所管の審査を終わります。

予算決算委員会都市経済分科会を暫時休憩いたします。

午後 1 時 4 1 分 休憩

午後 2 時 2 9 分 再開

○**稲田分科会長** 予算決算委員会都市経済分科会を再開いたします。

都市整備部所管について審査をいたします。

議案第 60 号、専決処分について（令和元年度米子市駐車場事業特別会計補正予算（補正第 1 回））についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

角建設企画課総務担当課長補佐。

○**角建設企画課長補佐兼総務担当課長補佐** 議案第 60 号、専決処分について（令和元年度米子市駐車場事業特別会計補正予算（補正第 1 回））について説明を申し上げます。

令和元年度、米子市補正予算書の 8 ページをごらんください。これは、平成 30 年度決算による不足額を繰り上げ充用するもので、平成 30 年度歳入決算額 1 億 8,634 万 2,000 円から、歳出決算額 7 億 2,435 万 7,000 円を引いた不足額 5 億 3,801 万 5,000 円を繰り上げ充用金として増額補正したものでございます。繰り上げ充用金の 5 億 3,800 万円につきましては、米子駅前地下駐車場等の過去からの累積赤字でございます。平成 28 年度以降、単年度収支は黒字化しておりますが、累積赤字の解消には至っておりません。昨年度から米子駅前地下駐車場の改修工事を実施しまして、本年 7 月末で改修が終了しますので、改修後の収支のシミュレーションを行った上で、累積赤字解消に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

○**稲田分科会長** 当局の説明が終わりました。

委員の皆様からの質疑、御意見をお願いいたします。

遠藤委員。

○**遠藤委員** これは、前にも議論したことがあるんだけど、副市長さん、この繰り上げ充用金というような規定を考えてみたときに、5 年も 10 年もそんな財政運用してもいいという法律は俺はないように思うんだけどな。それが米子市の場合やってきとるだがん。これ、仮に一般会計から立てかえて、結果こうなったわけで。これを外したら何か影響が出てくるんですか。一般会計のほうも外した。それで、単年度で黒字化になつとるけど、そいつを積み上げていけば、戻せるへんかやという話になるけども。状況を見とったけど、5 億のお金が積み上げられていったら、年間 5,000 万黒字出してきて 10 年間は…。繰り上げ充用金で処理しております。本当にこういうものでいいのかなという思いは、仮に外したらどうなるんですかと。もっときちんと整理して、仮に黒字が出てきて特別会計が本当に余るようなことがあれば、一般会計逆に振り込んでやっていけばいいんで、これは方向として僕はあると思うんですよね。こういう数字っていうものが、これはどうも納得できない。

○**稲田分科会長** 伊澤副市長。

○**伊澤副市長** この問題については以前も遠藤委員もそうですけども、議会でも御議論いただいておりますし、御答弁申し上げたところでございます。結論から申し上げますと、委員御指摘の部分には私も同感であります。ただ、一方で、今、先ほど担当のほうからも説明いたしましたが、駅前駐車場の機械施設の老朽化に伴う、いわゆる稼働できないものを

撤去して、機能回復するという工事もやっております。結論はおっしゃるとおりでありまして、多くの累積赤字が全て駐車場収入から解決できればいいですけども、それがじゃあ何年かかるのかということを見ると、その間ずっと繰り上げ充用を続けるということは現実的な選択肢ではないと、このように考えております。したがって、どこかで整理せなけんという認識をある意味持ちながら、ただ、そうはいつでも駅前駐車場のほうが一新しますので、それによる収支の改善状況を見きわめた上で、どこまで一般財源を投入するのかということの判断をした上で解消していこうかなと、このようには考えているところでもあります。

影響というところではありますが、端的に申し上げますと、その分だけ財源も失われるということでもあります。具体的に、実際に今でも累積赤字の…（聞き取れず）…という部分では、その分がないわけではありますが、実際に一般会計からこの部分を持ち出すことになれば、一般会計から赤字補填というんでしょうか、赤字を埋め合わせる分だけの財源は失われるということでもあります。以上です。

**○稲田分科会長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** そういう数字的にはそうなるけど、実質的に本当に影響はそんなにでもないと思うんです、一般会計。だから、もうこういうのは早く整理してもらいたいと思います。

それから、先ほどシミュレーションをするという、単年度の収支、これはいつごろまとめて、いつごろ議会に報告はできるんですか。

**○稲田分科会長** 伊達建設企画課長。

**○伊達建設企画課長** 駅の平面化の事業でございますけれども、今急いで工事やっております、8月1日にリニューアルオープンする、今予定でございます。その後オープンしましてから、すぐにはちょっと結果が出ないと思いますので、半年なり1年なり、ちょっとその収支を見ながら、改めてそこでシミュレーションを組ましていただきたいと思っております。少なくとも半年は様子を見させていただきたいと思っております。

**○稲田分科会長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** その動きを見てからシミュレーションつくるの。こういうふうに事業するんだから、その結果こういうような形にしていきたいと思ってるものをつくるの、どうなんだ。

**○稲田分科会長** 伊達建設企画課長。

**○伊達建設企画課長** 平面化の前の利用状況に応じて、ある程度シミュレーションは今でも組んではおるんですけども、ただ、このリニューアルオープンしてみないと、実際の台数っていうんですか、収支っていうのははっきりつかめないというところがございますので、実際はその状況を見まして新たにそこでシミュレーションを組ましていただきたいということで考えております。

**○遠藤委員** はい。

**○稲田分科会長** 戸田委員。

**○戸田委員** ごめんなさい、平成30年度の年度で利益が出たということだったんですけど、幾ら出たんですか。

**○稲田分科会長** 角建設企画課総務担当課長補佐。

**○角建設企画課長補佐兼総務担当課長補佐** 30年度の収支についてでございますけれども、駐車場特会全体ということになりますけれども、単年度収支黒字部分が2,199万1,433円となっております。

**○稲田分科会長** 戸田委員。

**○戸田委員** それで私、この案件について財政課長とちょっと協議をしていました、いろいろと。それで、さきに今の住宅貸付は国の有利な起債があつて、起債を充当させて特会を解散したという事例があるわけですけど、例えば5億5,000万ですか今。であれば、例えば有利な起債があれば、その収入を原資として返済をしていくというような手法はとられないものですか。私はそういう手法が検討されてもいいものではないか、もうそういう時期に来ておるのではないかなというふうに思っておるんですが、副市長さん、その辺はどげですか。

**○稲田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 当然、財源の問題というのは考えてまいります、ちょっと私の今知っている限りでは、これに活用できる、いわゆる赤字解消のための有利な起債っていうか財源は今のところ承知しておりません。

**○稲田分科会長** 戸田委員。

**○戸田委員** そういう財政解消もなかなか見当たらないということでした。しかしながら、やはり依然単独、単年度で2,000万ぐらいの黒字が計上できるというのであれば、例えば5億、単純計算で25年間の返済だというようなシミュレーションもできるんですけど、やはり私、当局に求めたいのは、今、遠藤委員さんもおっしゃったですけど、やはりそういうふうな赤字解消、累損をいかにきちっと整備していくかと、整理していくかというような手法も十分に検討されておられるかどうか、その辺が私は見えてこない。そういうふうな手法もいろんな見地から私は考えていくべきだろうと、もうそういう時期に来ておると思うんです。何十年間もこういうものは方法論をとっておって、今、副市長さんもベストではないという見解をお持ちのようですので、その辺の起債が充当できるかどうかわかりませんが、その辺の検討も早急に私はされるように要望しておきたいなというふうには…。

**○稲田分科会長** 田村委員。

**○田村委員** 新しいリニューアル後の中で作業というかオペレートするか、その人、動く人、これは何人ぐらいを想定されてますか。

**○稲田分科会長** 角建設企画課総務担当課長補佐。

**○角建設企画課長補佐兼総務担当課長補佐** リニューアルオープン後の人員の体制ということになります、昨年11月から工事に入っておりますが、それまでが統括1名、そして副統括が1名、そのほか22名という体制で、それ以上の体制でということを進めておりました。今回の整備に基づきまして機械の撤去、そういった操作も少なくなりますので、新しく8月1日以降の体制としましては、総括、副総括1名ずつのほか、12名という体制で考えております。

**○稲田分科会長** 田村委員。

**○田村委員** 機械があつたとき、機械はもう既に壊れて動かなくなったんですけど、私1回とめたら4の方が案内してくれたんです。ぱっとチケットとって渡して、そんなの要らな

いのに。で、角のあたり、あっちどうぞって、奥突き当たりもどうぞどうぞってもう1人同じ、どうぞどうぞって。で、汽車乗られますか、見送りですか。いや、何ですかそれみたいな。それによって場所が違います、まあそんな感じ、計4人の方が、もうあとがらんとしたところで、これないよねと思って、いわゆる赤字脱却できないのは、根底はここにあると私考えておまして、やはり本来の普通の駐車場というのは、どこのスーパー行っただって、とったらもう自分でとめるんです。そこに人が介在しなくとも勝手にとめるっていうのは普通だと思って、やはりあの人員配置というのは大いに猛省していただきたいと思っております。これに関して何か。

**○稲田分科会長** 伊達建設企画課長。

**○伊達建設企画課長** 全体的な赤字解消の取り組みということの一環で、この平面化っていうことに踏み切ったわけでございますけれども、まさに委員おっしゃられるように、こういった今、指定管理者に委託しておるわけなんですけれども、こういったものを指定管理料の減額、やはり平面化になるとそういった人数が要らないということになりますので、それも累積赤字をなるべく早目に解消しようということの一環で考えておるところでございます。

**○田村委員** よろしくお願ひします。

**○稲田分科会長** ほかございますか。

矢倉委員。

**○矢倉委員** ちょうどこれつくったのが、わしが1期目のときにわしがわけわからんで委員長しとってつくったっていうのがあれなんだけど、それはそのときのまた情勢があったんだ。今、駐車場を使ってる人たちはどういう人たちが使ってるんですか。汽車に乗る人、それで長距離の人、短距離の人、あるいは周辺のホテルなり店舗なり、どういう人がお使いになってるんですか。

**○稲田分科会長** 角建設企画課総務担当課長補佐。

**○角建設企画課長補佐兼総務担当課長補佐** 米子駅前地下駐車場のほうの利用状況ということでございますけれども、実際の時間帯ごとの、時間が30分以内無料というのがあるんですけれども、そのほか1時間単位ということで料金が変わってまいります。そのうちの30分以内、大体月で平均で1万600台ぐらいの駐車があるんですけれども、そのうちの75%に相当する7,500台ぐらいの方が30分以内の駐車ということになります。その実態からは、恐らく送り迎え、そういったものが中心だろうと考えております。

**○稲田分科会長** 矢倉委員。

**○矢倉委員** 送り迎えが中心ということ。JRを利用する人というのが乗って行って、置いて行くというわけではないんだね。あんまり少ない。そういうのは少ないんだね。

**○稲田分科会長** 伊達建設企画課長。

**○伊達建設企画課長** この地下駐車場っていうのが、一つの目的としましては、やはり駅の乗降、迎えとかそういったものが前は、従前は地上のほうで行われとったわけです。それで、その渋滞解消っていうのも一つの目的でございます、その目的からいったらそういった30分以内の送り迎えっていうのは、何ていいますか、これぐらいあってもいいのかなと。それで、それによって駅周辺の渋滞とかそういったものの解消になると、寄与しておるということで考えています。

○**稲田分科会長** 矢倉委員。

○**矢倉委員** 当時は米子駅前が全国10万都市で一番疲弊していると言われてた。ということで、駐車場も必要だろうということであれをつくった。当時と比べると、財政的なことなんだがんな。それは、あれはバス利用、これが非常に大きな、それとJRの長距離を利用する人というのが飛行機にとられた。大阪だとかはバスにとられた。JRの利用客が果たして伸びていく、その辺は推計しておられます。

○**稲田分科会長** 伊達建設企画課長。

○**伊達建設企画課長** その辺は推計はちょっとできてませんでして、存じておりません。

○**稲田分科会長** 矢倉委員。

○**矢倉委員** その辺を見ながら将来の財政的にも考えていかんと思うだがんな。JR駅前でも駅舎の問題も出てる。これはやっぱりやらなきゃならん問題。それ含めてやっていかにゃいけん。この事業にやっぱり意味がないと。私は思ってる。以上です。

○**稲田分科会長** よろしいですか。ほかございますか。

〔「なし」と声あり〕

○**稲田分科会長** ないようですので、以上で都市整備部所管の審査を終わります。

予算決算委員会都市経済分科会を暫時休憩いたします。

**午後2時44分 休憩**

**午後3時46分 再開**

○**稲田分科会長** 予算決算委員会都市経済分科会を再開いたします。

28日の予算決算委員会における分科会報告の意見の取りまとめを行います。

報告に入れる意見につきまして、委員の皆様からの意見を求めます。

予算についてになりますので、経済部で消化ガスですか、下水の部分で1点出まして、あと、伊藤委員のほうから。

消化ガスは取り上げる。それから、あと下水の部分も入る。

というところだけですね。消化ガスのところで皆様から出た意見を踏まえて、文案を作成させていただくということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と声あり〕

○**稲田分科会長** では、以上で予算決算委員会都市経済分科会を閉会いたします。

**午後3時48分 閉会**

米子市議会委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

予算決算委員会都市経済分科会長 稲田 清